

2026年度入学試験（7月）
大学院デザイン工学研究科

建築学専攻 修士課程
キャリア3年コース

入学試験問題・解答用紙

[小論文]

2025年7月5日（土）
9：30～12：30

＜解答要領＞

1. 解答は、問題用紙の解答記入欄にすること。
2. 問題用紙（解答用紙）のすべてに、受験番号と氏名を記入すること。また、表紙右下に受験番号を記入すること。
3. 参照はすべて不可とする。
4. 問題用紙（解答用紙）はすべて提出すること。
5. 別途配付する計算用紙は提出不要。

受験番号	
氏名	

2026 年度法政大学大学院デザイン工学研究科入学試験 (7 月)

問題・解答用紙

試 験 科 目	専 攻	参照	電卓	受 験 番 号				
小 論 文 (1 枚目／3 枚中)	建築学専攻	不可	不可					
				氏 名				

※参照可の場合（ ）

設問 以下の文章を読んで、その後の問に答えなさい。

従来、都市における聖なる場は、宗教的な意味合いをともなって成立するのが普通である。水辺の場合もまた、禊や沐浴、安全や豊漁の祈願などの行為は、日常・非日常を問わず、願いを宗教上の体系に結び付けて、その行動のひとつとして具象化したものといえる。もっとも、まず宗教化することで、儀式の正当化を目的とするケースも多い。たとえば、天災や雨乞い、溺死など非業の死がたたりや呪いなどに結び付けられ、それに対する畏怖の念から水神を祀り宗教化するのである。中国の浙江省でよく見られる洞窟祭祀などはその典型的な例で、湧水をたたえる穴こそがあの世とこの世をつなぐ出入口であり、蛇や龍を象徴として形象化させる。他にも、韓国公州西穴寺の祭壇水場や長野飯山小菅神社の甘露水など、日本を含むアジアにはそうした水の聖地が実に多い。

(中略)

そして、アジアや日本ではそうして作られた山や川といった地形の大きな枠組みが、有機的な関係をつくりながら独自の空間秩序を生み出した。水に寄り添って暮らすことの意義を重視する人々は、作られた地形によって常に危険にさらされる環境にあることをよく知っていた。だからこそ、水都には、その成立段階から、水の都市や周辺の地域そのものが備える特性によって、すでに人為的な災害が直接的あるいは間接的な要素として内包されていることになる。

(高村雅彦「水辺文化の原点を探る」、陣内秀信・高村雅彦『水都学Ⅳ 水都学の方法を探って』法政大学出版局、2015年より抜粋)

問1 文章の「水の都市や周辺の地域そのものが備える特性によって、すでに人為的な災害が直接的あるいは間接的な要素として内包されていることになる」を具体的に説明しなさい。

[illegible]

試 験 科 目	専 攻	参照	電卓	受 験 番 号				
小 論 文 (2 枚目／3 枚中)	建築学専攻	不可	不可					
				氏 名				

※参照可の場合（ ）

(1 枚目の続き)

問2 ここ数年、アジアの多くの都市では、それまでに経験したことのないような自然災害にみまわれている。異常気象や大規模地震は、人口の急激な増加と密集が顕著なアジアの都市部にあっては、より被害が甚大になる。これらの災害でとりわけ問題となったのは水である。人口の規模が桁で異なるアジアでは、ひとたび災害が発生すると、その被害も甚大なのである。2012 年の世界銀行の発表では、世界の総水害件数の約 4 割をアジアが占め、水害のリスクにさらされている人々のうち 9 割以上がアジアで暮らしているという。いま、アジアでは、人類が地球の自然といかに共生しながら生きていくべきか、それを根底から考えなおさなければならない時期に来ている。いざという時にもコントロールできていたはずの水が、人間の予想や科学技術の域を超えて多くを破壊し人命を奪う。世界の人口の 6 割が密集するアジアでは、21 世紀に課せられたもっとも重要な課題であろう。

そこで、設問の文章は、こうした問題といかなる関係があり、課題解決のためにどのような提案がありうるか、具体的に論じなさい。

